

平成24年度笠間市事務事業評価調書(平成23年度実施事業)

所属部課名	学務課稲田幼稚園
課長名	園部 孝男
担当者名	小坂 久子

【PLAN】事務事業の計画

事務事業番号 1

事務事業名	稲田幼稚園保育事業		評価区分	事務事業性質	政策的事業	補助単独区分	所管省庁		実施計画事務事業		
			評価事業	重要事務事業	—		市単独			部内優先順位	事業数
総合計画体系	政策	5.人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり〔教育・文化〕		新規・継続	継続	補助率			順位		
	小政策	1. 次代を担う子どもを育みます		開始年度	終了年度						
	施策	1. 幼児教育		事業期間	継続実施		単年度繰り返し	共催者・関係団体			
	小施策	1. 豊かな体験活動の充実									
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画					
	一般	教育費	幼稚園費	幼稚園費	幼稚園運営事業	根拠法令	学校教育法	幼稚園教育要領			
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無			
						直営	—	—			

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
地域の特性や幼児の実態を基に、いろいろな人・物・自然と触れ合う体験を通して、幼児期における道徳性の芽生え培うなど豊かな心の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各年齢・クラスの実態を踏まえた短期の指導計画の作成</li> <li>幼児一人一人に応じた日々の保育指導</li> <li>身近な自然や行事を通じた体験活動</li> <li>保育に対する反省と評価</li> </ul>	幼児一人一人が自己を発揮して、楽しく園生活をおくる。	消耗品費 69,000円 報償費 109,000円
当年度計画	同上	同上	(予算額) 消耗品費 68,000円 報償費 91,000円
翌年度計画			

5 事務事業の目的と手段

目的	①対象(働きかける相手・もの)	全園児	④対象指標	全園児	単位	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	身近な自然や行事を通じた体験活動をする中で、豊かな心を育む。	⑤成果指標	行事を通して幼児の成長が見られたと思う保護者の割合		%
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	保育日 行事への参加く運動会・発表会・遠足・もちつき・園外保育等)	⑥活動指標	保育日数 各種行事		日 回

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移																			
		事業費	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(計画)		25年度(計画)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)			
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円															
			県支出金	千円															
			地方債	千円															
			その他	千円															
			一般財源	千円		151		179		159									
			事業費計(ア)	千円		151		179		159		0		0		0		0	
人件費		職員割合	人 千円	0.33	2,475	0.33	2,475	0.33	2,475		0		0		0		0		
		時間外	千円		103		57		72										
		嘱託臨時	千円		5,481		5,835		5,971										
		他課の協力分	千円																
		人件費計(イ)	千円		8,059		8,367		8,518		0		0		0		0	0	
		トータルコスト(ア)+(イ)	千円		8,210		8,546		8,677		0		0		0		0		
指標区分		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(目標)		25年度(目標)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)				
活動指標	保育日数	日	193		193		195												
	各種行事	回	17		17														
対象指標	全園児	人	73		73		63												
成果指標	行事を通して幼児の成長が見られたと思う保護者の割合	%	74		78		80												
コスト指標		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度				
一日当たりの保育費用		円	42,539		44,280														
園児一人当たりの保育費用		円	112,466		117,068														

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 「子ども園」の在り方について国の動向を注視していく。
---

【CHECK】事務事業の一次評価(担当課長)

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	幼稚園教育要領にもとづき、幼児が適当な環境の下で様々な体験を通して生きる力の基礎を培うことは、幼児にとって必要な教育である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	アンケートや反省をもとに行事の改善や地域の自然に触れる機会を多く取り入れるなど、体験活動を通じて幼児の自主性を高め豊かな心が育っている。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	一人一人に応じた指導や様々な体験を取り入れた活動は、幼児の発達に適した教育内容である。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り、反省点)  地域の特性を生かした体験活動や行事等は、園児の豊かな心の育成につながる大切な活動である。	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる 地域にあった施設配置がなくなると、幼稚園教育を希望する保護者や幼児に支障が出る。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価(担当部長)	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 豊かな心の育成は幼稚園教育において主体となって取り組んでいく必要のある事業なので、今後とも継続実施していく。
	資源配分	現状維持	
	部内での位置付け	上位	

平成24年度笠間市事務事業評価調書(平成23年度実施事業)

所属部課名	学務課稲田幼稚園
課長名	園部 孝男
担当者名	小坂 久子

【PLAN】事務事業の計画

事務事業番号 2

事務事業名	幼児教育研修事務		評価区分	事務事業性質	政策的事業	補助単 市単独	所管省庁	実施計画事務事業	
			評価事業	重要事務事業	—			部内優先順位	順位
総合計 画系	政策	5.人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり〔教育・文化〕		新規・継続	継続	補助率	共催者・関係団体		
	小政策	1. 次代を担う子どもを育みます		開始年度	終了年度				
	施策	1. 幼児教育		継続実施	単年度繰り返し				
予 算 科 目	会計	款	項	目	細目名	関連計画			
	一般	教育費	幼稚園費	幼稚園費	幼稚園運営事業	根拠法令	学校教育法	幼稚園教育要領	
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無	
						直営	—	—	

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
健康で心豊かな幼児の育成のために、教育内容の充実に努めるとともに教師の資質向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の編制</li> <li>・年間指導計画の作成</li> <li>・研修・研究会の参加と知識と情報の共有化</li> <li>・園内研修</li> <li>・幼小交流活動</li> </ul>	幼稚園教育要領に基づき指導計画をたて保育を行うとともに、教師の専門性を高めるための研修の充実に努める。	旅費 46,720円
	当年度計画		(予算額)
	翌年度計画	上記に同じ	旅費 47,000円

5 事務事業の目的と手段

目的	①対象(働きかける相手・もの)	教諭	④対象指標	教諭	単位	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	指導の工夫と改善に努める。	⑤成果指標	研修・研究会・講演会延参加人数	人	
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	研修会・研究会に参加 園内研修 幼小交流活動	⑥活動指標	研修会・研究会 園内研修 幼小交流活動	回	回 回

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移																			
		事業費	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(計画)		25年度(計画)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)			
投入コスト (インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円															
			県支出金	千円															
			地方債	千円															
			その他	千円															
			一般財源	千円		13	47	47											
	事業費計(ア)			千円	13	47	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
人件費		職員割合	人 千円	0.44	3,300	0.44	3,300	0.44	3,300	0	0	0	0	0	0	0	0		
		時間外	千円																
		嘱託臨時	千円																
		他課の協力分	千円																
		人件費計(イ)	千円	3,300	3,300	3,300	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
トータルコスト(ア)+(イ)			千円	3,313	3,347	3,347	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		指標区分	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(目標)		25年度(目標)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)			
活動指標	研修会・研究会	回		12	16														
	園内研修	回		11	11														
	幼小交流活動	回		8	7														
対象指標	教諭	人		7	7														
	研修・研究会・講演会延参加人数	人		17	21														
		コスト指標	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度			
		一回当たりの研修費用	円	276,083		209,188													
		教諭一人当たりの研修費用	円	473,286		478,143													

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし
---

【CHECK】事務事業の一次評価(担当課長)

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性, 対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	日々の保育の中で、指導計画のねらいや幼児の発達に沿った指導をするために研修は必要である。幼稚園から小学校へスムーズな就学のために幼小交流活動は必要である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民, または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	研修・研究会に参加し自己研鑽をつんだり、教師間で研修内容を共有することで専門性を高めることができた。幼小交流では小学校がどんなところが分かり、年長児は就学に向けた期待が高めることができた。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し, 市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し, 個々の業務の効率化等, 業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	研修会等へ参加することで知識や情報を得て、幼児の一人一人の発達に沿った指導が展開され指導の充実につながった。
	一次評価結果	必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り, 反省点)  研修等に参加し専門性高め、一人一人の特性に応じた指導の充実を図ることは、健康で心豊かな幼児の育成に生かされている。

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止, 廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく, 問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる 職員の研修等がなくなると, 資質の維持・向上ができなくなる。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価 (担当部長)	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 小学校へとスムーズに移行できるよう幼児達を育てて行くという視点から、小学校教育との円滑な接続が必要であるので、今後とも継続実施していく。
	資源配分	現状維持	
	部内での位置付け	上位	

平成24年度笠間市事務事業評価調書(平成23年度実施事業)

所属部課名	学務課 稲田幼稚園
課長名	園部 孝男
担当者名	石井 一葉

【PLAN】事務事業の計画

事務事業番号 3

事務事業名	稲田幼稚園PTA事業			評価区分	事務事業性質	政策的事業	補助率	所管省庁	実施計画事務事業		
				評価事業	重要事務事業	—			市単独	部内優先順位	順位
総合計画体系	政策	5.人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり〔教育・文化〕			新規・継続	継続	補助率	共催者・関係団体			
	小政策	1. 次代を担う子どもを育みます			開始年度	終了年度					
	施策	1. 幼児教育			事業期間	継続実施			単年度繰り返し		
	小施策	3. 保護者・地域との連携									
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画					
							根拠法令				
							実施手法	補助金の有無	負担金の有無		
						直営	—	—			

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
保護者と幼稚園が協力して、幼児の健全な成長を図る。	当年度計画 ・家庭教育学級の開催 ・役員会・委員会の開催 ・各種行事への協力と参加 ・保護者と連携をして健やかな幼児の育成 翌年度計画 同上	幼児の健やかな成長のために、保護者・地域と連携した活動を行う。 同上	(予算額)

5 事務事業の目的と手段				単位	
目的	①対象(働きかける相手・もの)	保護者	④対象指標	保護者	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	幼児の健やかな成長のために、家庭と連携した子育て支援を行う。	⑤成果指標	家庭教育学級延参加人数	人
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	家庭教育学級	⑥活動指標	家庭教育学級	回
		役員会・委員会		役員会・委員会	回
		行事への参加		行事への参加	回

9

事業費及び指標の推移																			
		事業費	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(計画)		25年度(計画)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)			
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円															
			県支出金	千円															
			地方債	千円															
			その他	千円															
			一般財源	千円															
			事業費計(ア)	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	人件費	職員割合	人 千円	0.26	1,950	0.26	1,950	0.26	1,950	0	0	0	0	0	0	0	0		
		時間外	千円																
		嘱託臨時	千円																
		他課の協力分	千円																
			人件費計(イ)	千円	1,950	1,950	1,950	1,950	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		トータルコスト(ア)+(イ)	千円	1,950	1,950	1,950	1,950	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		指標区分	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(目標)		25年度(目標)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)			
活動指標	家庭教育学級	回		4	3	3													
	役員会・委員会	回		6	6	6													
	行事への参加	回		10	9	9													
対象指標	保護者	人		70	64	57													
成果指標	家庭教育学級延参加人数	人		138	140														
		コスト指標	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度			
		一回当たりの家庭教育学級費用	円	487,500		650,000													
		保護者一人当たりの家庭教育学級費用	円	27,857		30,469													

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
特になし

【CHECK】事務事業の一次評価(担当課長)

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性, 対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	幼児一人一人の望ましい発達を促していくためには、家庭と幼稚園との十分な連携が必要である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある		
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民, または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	PTA役員・委員が中心となり、園と協力して行事等の運営がスムーズに行うことができた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある		
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し, 市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し, 個々の業務の効率化等, 業務委託や臨時雇用等)》	行事を行うことで幼児と保護者が触れ合うことができ、幼稚園の理解にもつながった。また、保護者同士の交流がもたれ、子育ての意識を高めることができた。	
一次評価結果		全体総括(振り返り, 反省点)	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止, 廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく, 問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる PTAの協力がなくては行事等の運営は難しく, また, 家庭と幼稚園の連携がなくなると, 幼児の健やかな成長に支障がでる。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価 (担当部長)	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 幼児の健やかな成長のために、家庭・地域と連携した活発なPTA活動が必要と考える。
	資源配分	現状維持	
	部内での位置付け	上位	

平成24年度笠間市事務事業評価調書(平成23年度実施事業)

所属部課名	学務課 稲田幼稚園
課長名	園部 孝男
担当者名	石井 一葉

【PLAN】事務事業の計画

事務事業番号 4

事務事業名	地域との交流事業			評価区分	事務事業性質	政策的事業	補助単独区分		所管省庁		実施計画事務事業	
				評価事業	重要事務事業	—	市単独	—	補助率	部内優先順位	順位	事業数
総合計画体系	政策	5.人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり〔教育・文化〕			新規・継続	継続	開始年度	終了年度	共催者・関係団体			
	小政策	1. 次代を担う子どもを育みます			事業期間	継続実施						
	施策	1. 幼児教育										
	小施策	3. 保護者・地域との連携										
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画						
						根拠法令						
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無				
						直営	—	—				

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
地域の高齢者・ボランティアなど様々な人との温かな触れ合いを通して、保育活動の理解や協力を図り、幼児の豊かな心を育む。	当年度計画 ・絵本の読み聞かせ(ボランティア・クラス委員)の実施 ・高齢者との交流会(昔遊び・ゲートボール)の実施 ・サッカー教室の実施 翌年度計画 同上	・絵本の読み聞かせ(年9回) ・祖父母との交流会(年2回) ・サッカー教室(年2回)	(予算額)

5 事務事業の目的と手段

目的	手段	④ 対象指標	⑤ 成果指標	⑥ 活動指標	単位
①対象(働きかける相手・もの)	全園児	全園児	地域の方との交流会	地域の方との交流会	人
②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	絵本の読み聞かせや交流会などで、様々な人とかかわり豊かな心を育む。	⑤ 成果指標	絵本の読み聞かせ	絵本の読み聞かせ	回
③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	絵本の読み聞かせ 高齢者との交流会 サッカー教室	⑥ 活動指標	サッカー教室	サッカー教室	回

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移																			
		事業費	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(計画)		25年度(計画)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)			
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円															
			県支出金	千円															
			地方債	千円															
			その他	千円															
			一般財源	千円															
			事業費計(ア)	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	人件費	職員割合	人 千円	0.18	1,350	0.18	1,350	0.18	1,350		0		0		0		0		
時間外		千円																	
嘱託臨時		千円																	
他課の協力分		千円																	
		人件費計(イ)	千円	1,350	1,350	1,350	1,350	1,350	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		トータルコスト(ア)+(イ)	千円	1,350	1,350	1,350	1,350	1,350	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		指標区分	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(目標)		25年度(目標)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)			
活動指標	地域の方との交流会	回		8	8														
	絵本の読み聞かせ	回		4	6														
	サッカー教室	回		1	1														
対象指標	全園児	人		73	73														
成果指標	地域の方との交流会	回		8	8														
	絵本の読み聞かせ	回		4	6														
	サッカー教室	回		1	1														
		コスト指標	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度			
		一回当たりの地域との交流会費用	円	168,750		168,750													
		園児一人当たりの地域との交流会費用	円	18,493		18,493													

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし
---

【CHECK】事務事業の一次評価(担当課長)

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性, 対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	祖父母やボランティアグループとの温かな触れ合いを通して、豊かな心が育っているので交流の機会が必要である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民, または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	様々な人とかかわることは感動体験や社会性を育むよい機会であるので有効である。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し, 市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し, 個々の業務の効率化等, 業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	地域の方や祖父母と交流する中で様々な人とのかかわりを学び、いろいろな経験を積み重ねることで、豊かな心を育むことができた。また、地域の方の幼稚園理解を深めることができた。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り, 反省点)  地域の様々な人と交流を通して豊かな心を育てる取り組みを行うとともに、幼稚園を理解してもらうことは大切である。	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止, 廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく, 問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる 地域の方との交流がなくなると、幼児の豊かな心の発達や、開かれた幼稚園づくりに支障がでる。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価 (担当部長)	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 園児にとって豊かな心を育むために、地域の方や保護者との交流は必要であり、幼稚園を理解してもらう大切な機会でもあるので継続が望ましい。
	資源配分	現状維持	
	部内での位置付け	上位	

平成24年度笠間市事務事業評価調書(平成23年度実施事業)

所属部課名	学務課 稲田幼稚園
課長名	園部 孝男
担当者名	青木 一志

【PLAN】事務事業の計画

事務事業番号 5

事務事業名	保健安全管理事業		評価区分	事務事業性質	維持管理事業	補助単独区分	所管省庁		実施計画事務事業		
			評価事業	重要事務事業	—		市単独			部内優先順位	事業数
総合計画体系	政策	5.人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり〔教育・文化〕		新規・継続	継続	補助率			順位		
	小政策	1. 次代を担う子どもを育みます		開始年度	終了年度						
	施策	1. 幼児教育		事業期間	継続実施		単年度繰り返し	共催者・関係団体			
	小施策	4. 幼稚園施設の充実									
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画					
	一般	教育費	幼稚園費	幼稚園費	幼稚園運営事業	根拠法令					
	一般	教育費	幼稚園費	幼稚園費	幼稚園施設管理事業	実施手法	補助金の有無	負担金の有無			
						直営	—		—		

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
幼児一人一人が健康管理や、安全で楽しく遊べる保育環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健安全年間計画・危機管理マニュアルの作成</li> <li>・施設・遊具の安全点検</li> <li>・保健衛生管理</li> <li>・環境整備</li> <li>・放射線量の測定実施</li> </ul>	安全点検(月1回) 避難訓練(9回) 身体測定(隔月) 放射能測定(週2回)	消耗費 96,000円 医療材料費 28,000円 修繕費 220,000円
	同上	同上	(予算額) 消耗費 95,000円 医療材料費 27,000円 修繕費 100,000円

5 事務事業の目的と手段

目的	①対象(働きかける相手・もの)	全園児	④対象指標	全園児	単位	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	園児の健康と安全を確保する。	⑤成果指標	怪我の発生件数		件
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	安全点検(月1回) 避難訓練 交通安全教室 身体測定 内科検診 歯科検診	⑥活動指標	安全点検 避難訓練 健康診断・身体測定		回 回 回

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移																			
		事業費	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(計画)		25年度(計画)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)			
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円															
			県支出金	千円															
			地方債	千円															
			その他	千円															
			一般財源	千円	421	344	222												
	事業費計(ア)			千円	421	344	222	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
人件費		職員割合	人 千円	0.36	2,700	0.36	2,700	0.36	2,700	0	0	0	0	0	0	0	0		
		時間外	千円																
		嘱託臨時	千円																
		他課の協力分	千円																
		人件費計(イ)	千円	2,700	2,700	2,700	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
トータルコスト(ア)+(イ)			千円	3,121	3,044	2,922	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		指標区分	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(目標)		25年度(目標)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)			
活動指標	安全点検	回		12	12	12													
	避難訓練	回		8	9	9													
	健康診断・身体測定	回		7	7	7													
対象指標	全園児	人		73	73	63													
	怪我の発生件数	件		2	2														
		コスト指標	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度			
		一回当たりの安全点検費用	円	260,083		253,667													
		園児一人当たりの安全点検費用	円	42,753		41,699													

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
 福島第一原子力発電所事故を受け、保護者から幼稚園での放射線量を心配する声が寄せられ、週2回の放射線量の測定、砂場・園庭の土壌検査を実施する。今後も、幼児の安心安全の確保のためにも継続的な実施が必要である。

【CHECK】事務事業の一次評価(担当課長)

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性, 対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	幼児の健康や安全を守るため、施設設備の十分な点検・幼児への安全指導が必要である。
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民, または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	震災の影響により園舎復旧工事の中での保育であったが、職員間の危機管理の徹底・園児への安全指導により、園児は安全に園生活をおくる事ができた。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し, 市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し, 個々の業務の効率化等, 業務委託や臨時雇用等)》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	幼児の安全と健康を確保するために必要な事業である。
一次評価結果		全体総括(振り返り, 反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	日常の環境衛生管理を適正に行うことで、安全な生活環境を維持し、幼児を疾病、事故から守るとともに、清潔で快適な幼稚園生活が送れるようにするために妥当な実施内容である。 今後も地震の心配が続くと考えられるので、引き続き保健安全管理に努めてほしい。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案	
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法	

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案	
④取組状況	

その他

⑤事務事業を休止, 廃止した場合の成果への影響の有無とその対策	<input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく, 問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる 幼児の安全と保健衛生管理の確保ができなくなる。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価 (担当部長)	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 現状での保健安全管理事業としては、適切であり次年度も継続が望ましいと考える。
	資源配分	現状維持	
	部内での位置付け	上位	

平成24年度笠間市事務事業評価調書(平成23年度実施事業)

所属部課名	学務課 稲田幼稚園
課長名	園部 孝男
担当者名	青木 一志

【PLAN】事務事業の計画

事務事業番号 6

事務事業名	障害児教育事業			評価区分	事務事業性質	政策的事業	補助単独区分	所管省庁		実施計画事務事業	
				評価事業	重要事務事業	—		市単独			部内優先順位
総合計画体系	政策	5.人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり〔教育・文化〕			新規・継続	継続	補助率			順位	事業数
	小政策	1. 次代を担う子どもを育みます			開始年度	終了年度					
	施策	1. 幼児教育			事業期間	継続実施	単年度繰り返し	共催者・関係団体			
	小施策	1. 豊かな体験活動の充実									
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画					
	一般	教育費	幼稚園費	幼稚園費	障害児教育事業	根拠法令	学校教育法				
							実施手法	補助金の有無	負担金の有無		
						直営	—	—			

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
市内の幼稚園、保育所(園)に在園している3・4・5歳児で、ことば及び情緒に何らかの心配や不安のある幼児は増えてきている。 そのような幼児に対して、一人一人に応じた個別の指導を行う場としてさくらんぼ教室を設けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通級を希望する幼児・保護者との面接。</li> <li>・個別の指導計画の作成。</li> <li>・幼児の実態に応じた指導を行う。(一人当たり週1回1時間間の指導)</li> <li>・関係機関との連携。</li> <li>・特別支援教育研修会の実施。</li> </ul>	個々に応じた指導を行い、幼児の成長につなげる。	報償費 10,000円 備品購入費 48,000円  (予算額) 報償費 10,000円 消耗品費 10,000円 備品購入費 58,000円
当年度計画	同上	同上	
翌年度計画			

5 事務事業の目的と手段			単位		
目的	①対象(働きかける相手・もの)	市内の幼稚園、保育所(園)に在園し、集団生活に適応困難な幼児	④対象指標	通級児人数	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	一人一人の特性に応じた指導を行いその可能性を見だし、豊かな人間性の育成に努める。	⑤成果指標	通級回数	回
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	週1回の指導	⑥活動指標	通級回数	回

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移																			
		事業費	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(計画)		25年度(計画)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)			
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円															
			県支出金	千円															
			地方債	千円															
			その他	千円															
			一般財源	千円	110	58	78												
		事業費計(ア)	千円	110	58	78	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
人件費		職員割合	人 千円	0.80	6,000	0.80	6,000	0.80	6,000	0	0	0	0	0	0	0	0		
		時間外	千円																
		嘱託臨時	千円																
		他課の協力分	千円																
		人件費計(イ)	千円	6,000	6,000	6,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	トータルコスト(ア)+(イ)	千円	6,110	6,058	6,078	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		指標区分	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(目標)		25年度(目標)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)			
活動指標	通級回数	回		410	430														
対象指標	通級児人数	人		10	14														
成果指標	通級回数	回		410	430														
		コスト指標	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度			
		通級1回当たりの費用	円	14,903		14,089													
		通級児一人当たりの費用	円	611,000		432,714													

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 通級希望者は増加の傾向にある。
--

【CHECK】事務事業の一次評価(担当課長)

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性, 対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	ことば及び情緒に何らかの心配や不安をもつ幼児やその保護者にとって大切な場となっていることから、その必要性は高いと考える。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民, または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	指導計画を作成し、幼児一人一人の実態に応じた指導を行ってため、幼児の育ちにつながっていた。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し, 市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し, 個々の業務の効率化等, 業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	障害のある園児の個々の教育的ニーズを把握し、個別指導を行うことにより幼児の育ちにつながり、その効率性は高いと考える。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り, 反省点)  幼稚園や保育所で「気になる子」とされている幼児にとって、通級教室は重要な役割を果たしているため、実施内容は妥当であると考ええる。	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止, 廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく, 問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる 事業を休止, 廃止した場合は障害のある幼児の園生活に支障が出る。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価 (担当部長)	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 今後も市民のニーズが高まるであろう障害児教育事業は、次年度も継続が望ましいと考える。
	資源配分	現状維持	
	部内での位置付け	上位	